

## 久留米市地場企業景況調査レポート(平成28年10月～12月期調査分)

### <調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これら情報の集計結果を事業所へ提供し、経営に活用していただく。

### <調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

### <調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

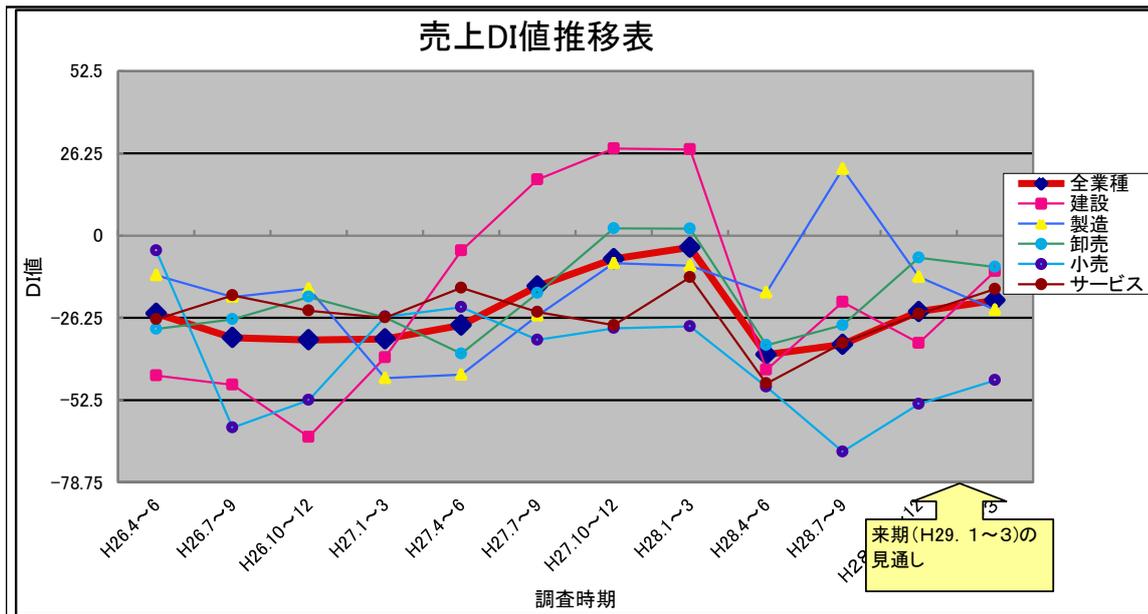
### <DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

### <平成28年10月～12月期調査分回収結果>

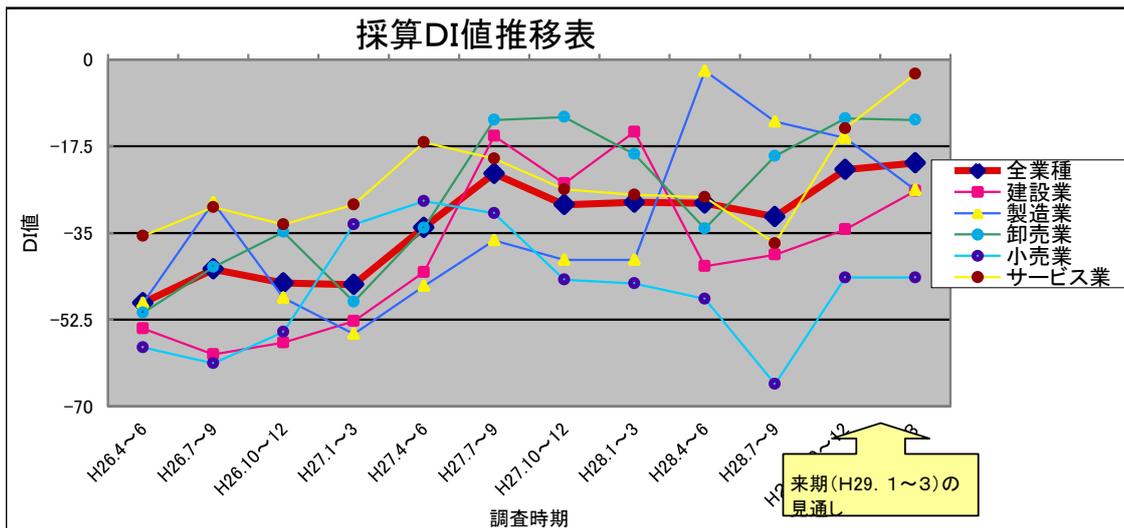
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	183	30.5%
建設業	120	36	30.0%
製造業	120	39	32.5%
卸売業	120	42	35.0%
小売業	120	29	24.2%
サービス業	120	37	30.8%



今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は76社(前期比1社減)、「減少した」と回答した企業は79社(前期比16社減)、「横ばいである」と答えた企業は62社(前期比横ばい)であった。DI値を見ると、▲24.3となり、前期比で9.5P好転した。

業種別に見ると、建設業▲34.9(前期比13.1P悪化)、製造業▲13.2(前期比8.1P好転)、卸売業▲7.1(前期比11.9P好転)、小売業▲53.8(前期比40.0P悪化)、サービス業▲25.0(前期比1.5P悪化)となった。

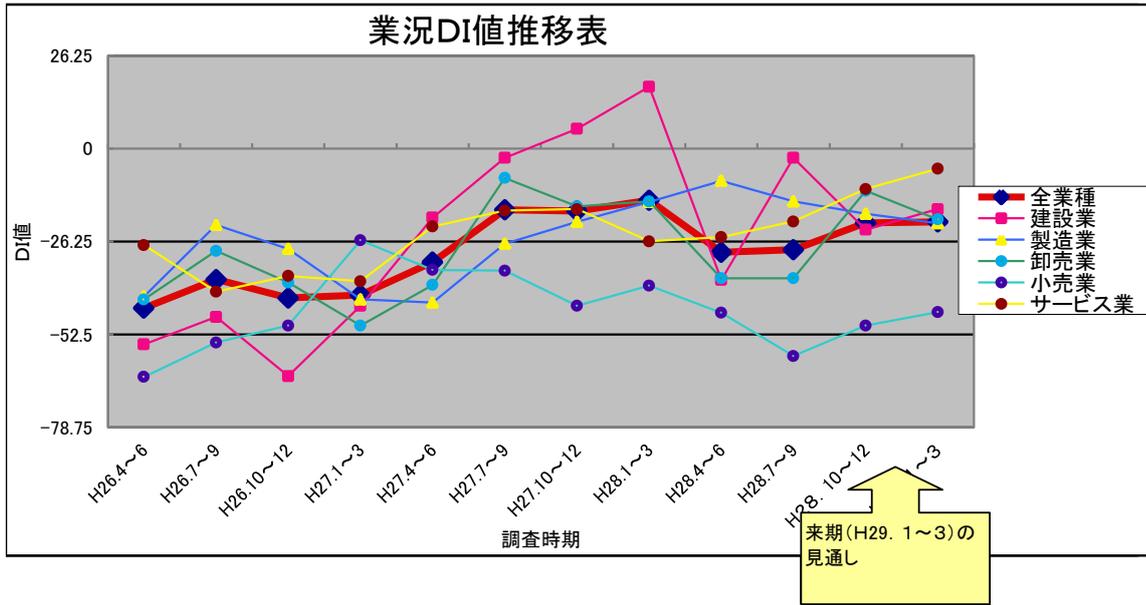
来期(H29. 1~3)の見通しでは全業種DI値は▲20.7と8.4P好転する見込み。



今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比3社減)、「悪化した」と回答した企業は61社(前期比23社減)、「横ばいである」と答えた企業は93社(前期16社増)であった。DI値を見ると▲22.2となり、前期比で9.5P好転した。

業種別に見ると、建設業▲34.3(前期比5.1P好転)、製造業▲15.8(前期比3.3P悪化)、卸売業▲11.9(前期比9.9P好転)、小売業▲44.0(前期比4.3P好転)、サービス業▲13.9(前期比13.4P好転)となった。

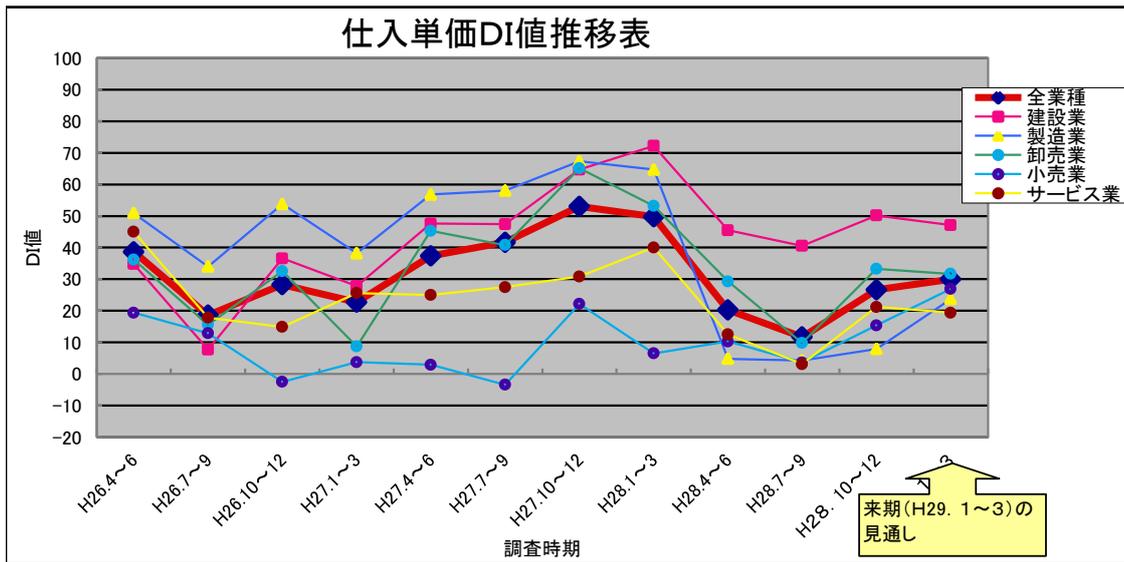
来期(H29. 1~3)の見通しでは全業種DI値は▲20.9と8.2P好転する見込み。



今期(H28.10~12)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は58社(前期比14社増)、「横ばいである」と答えた企業は97社(前期比3社増)であった。DI値を見ると▲21.0となり、前期比で7.6P好転した。

業種別に見ると、建設業▲22.9(前期比2.3P悪化)、製造業▲18.4(前期比3.5P悪化)、卸売業▲11.9(前期比14.9P好転)、小売業▲50.0(前期比8.6P好転)、サービス業▲11.4(前期比10.5P好転)となった。

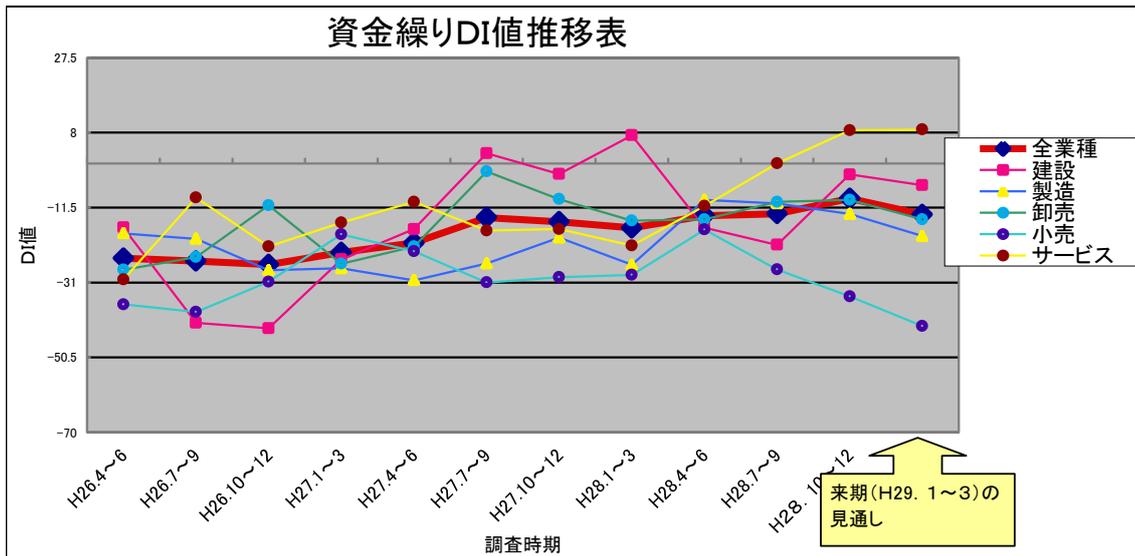
来期(H29.1~3)の見通しでは全業種DI値は▲20.7と前期比8.4P好転の見込み。



今期(H28.10~12)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は60社(前期比12社増)、「低下した」と回答した企業は14社(前期比13社減)、「横ばいである」と答えた企業は99社(前期比5社減)であった。DI値を見ると、26.6となり、前期比で14.9P上昇した。

業種別に見ると、建設業52.9(前期比12.3P上昇)、製造業7.9(前期比3.6P上昇)、卸売業33.3(前期比21.4P上昇)、小売業15.4(前期比5.1P上昇)、サービス業21.2P(前月比14.5P上昇)となった。

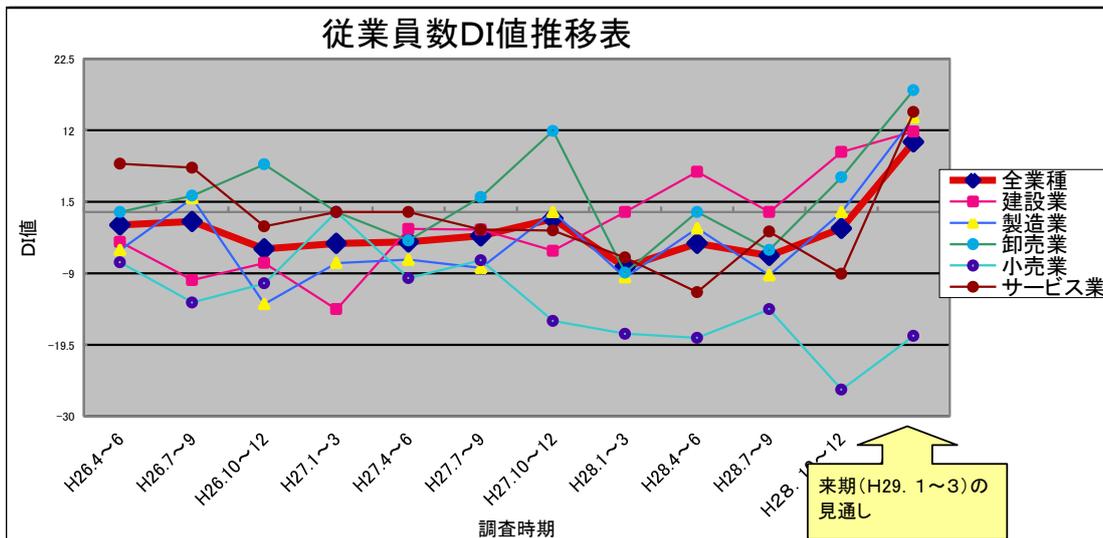
来期(H29.1月~3月)の見通しでは全業種DI値は19.4と7.7P上昇する見込み。



今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は15社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は31社(前期比9社減)、「横ばいである」と答えた企業は130社(前期比3社増)であった。DI値を見ると▲9. 1となり、前期比で4. 0P好転した。

業種別に見ると、建設業▲2. 9(前期比18. 3P好転)、製造業▲13. 2(前期比2. 8P悪化)、卸売業▲9. 5(前期比3. 3P好転)、小売業▲34. 6(前期比17. 4悪化)、サービス業8. 6(前期比2. 3P好転)となった。

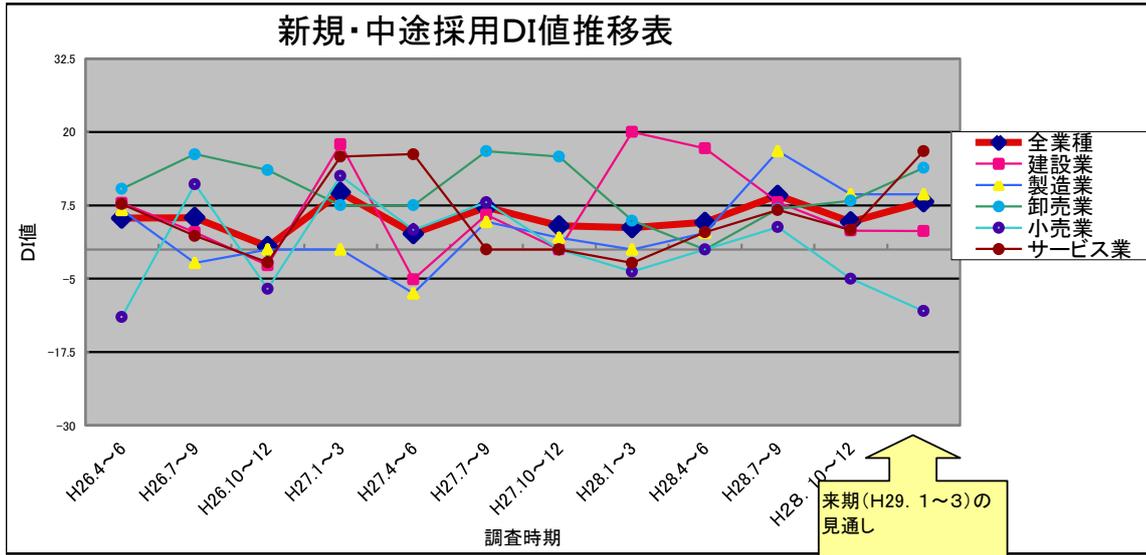
来期(H29. 1~3)の見通しでは全業種DI値は▲13. 3と0. 7P好転する見込み。



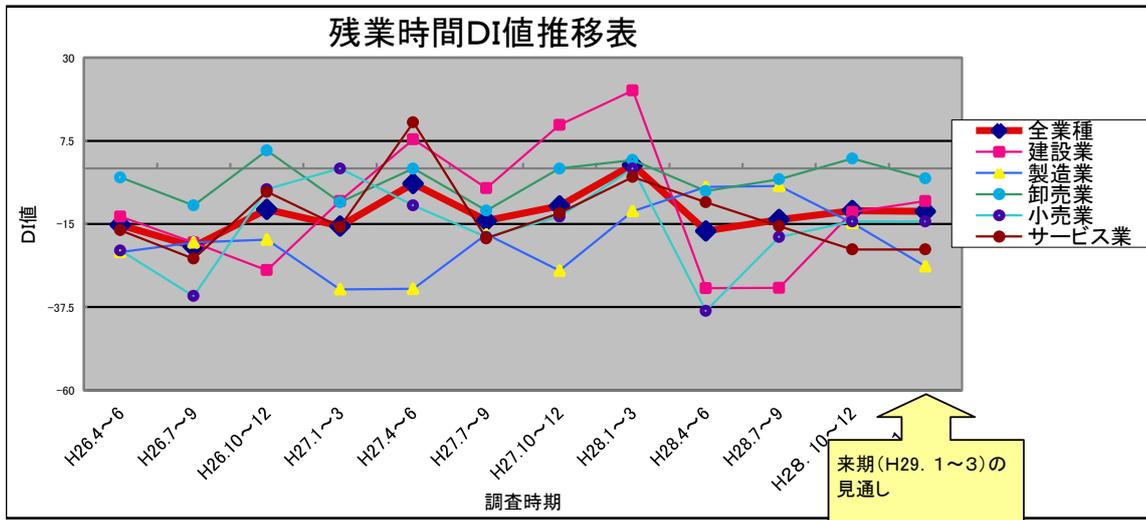
今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は26社、「減少した」と回答した企業は30社、「横ばいである」と答えた企業は109社であった。DI値は▲2. 4となった。

業種別に見ると、建設業8. 8、製造業0. 0、卸売業5. 1、小売業▲26. 1、サービス業▲9. 1となった。

来期(H29. 1~3)の見通しでは、全業種DI値は10. 3となる見込み。業種別に見ると、建設業11. 8、製造業13. 9、卸売業17. 9、小売業▲18. 2、サービス業14. 7となる見込み。

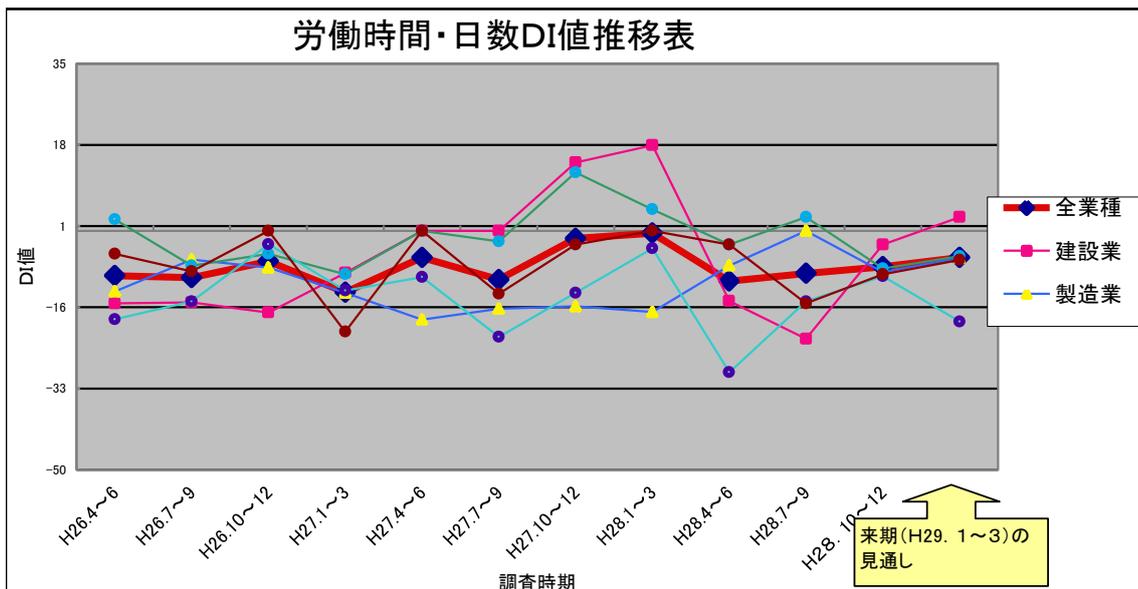


今期(H28.10~12)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は26社、「減少した」と回答した企業は14社、「横ばいである」と答えた企業は114社であった。DI値は4.7となった。  
業種別に見ると、建設業3.2、製造業9.4、卸売業8.3、小売業▲5.0、サービス業3.3となった。  
来期(H29.1~3)の見通しでは、全業種DI値は8.1となる見込み。業種別に見ると、建設業3.1、製造業9.4、卸売業13.9、小売業▲10.5、サービス業16.7となる見込み。



今期(H28.10~12)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は13社、「減少した」と回答した企業は31社、「横ばいである」と答えた企業は114社であった。DI値は▲11.4となった。  
業種別に見ると、建設業▲11.8、製造業▲14.7、卸売業2.7、小売業▲14.3、サービス業▲21.2となった。  
来期(H29.1~3)の見通しでは、全業種DI値は▲8.8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲26.5、製造業▲2.4、卸売業▲2.7、小売業▲14.3、サービス業▲21.9となる見込み。

### 労働時間・日数DI値推移表

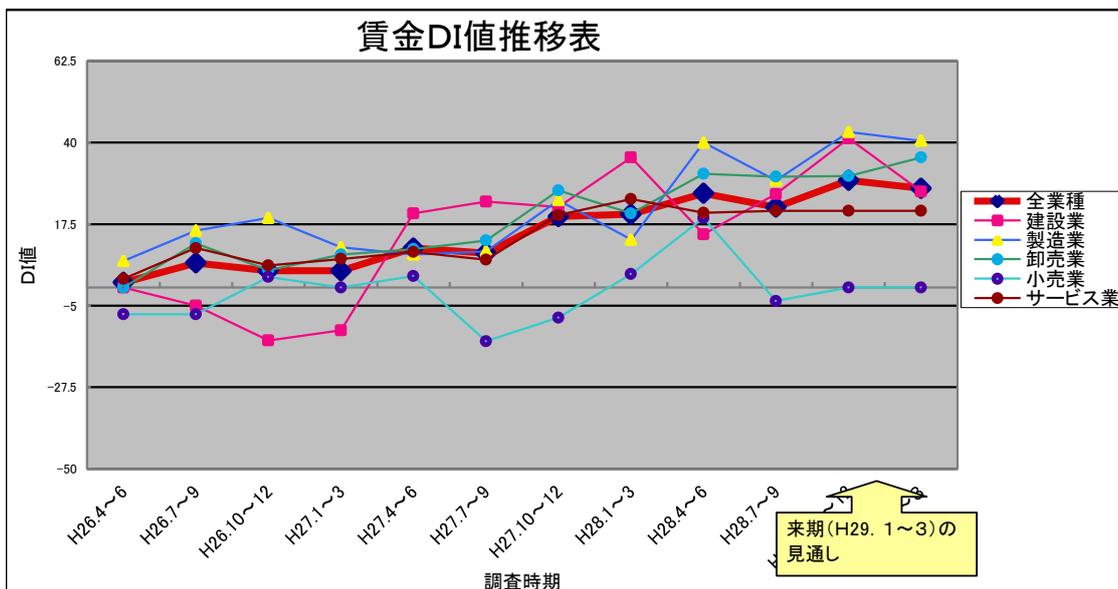


今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は6社、「減少した」と回答した企業は18社、「横ばいである」と答えた企業は137社であった。DI値は▲7. 5となった。

業種別に見ると、建設業▲2. 9、製造業▲8. 6、卸売業▲7. 9、小売業▲9. 5、サービス業▲9. 1となった。

来期(H29. 1~3)の見通しでは、全業種DI値は▲5. 6となる見込み。業種別に見ると、建設業2. 9、製造業▲5. 7、卸売業▲5. 3、小売業▲19. 0、サービス業▲6. 1となる見込み。

### 賃金DI値推移表

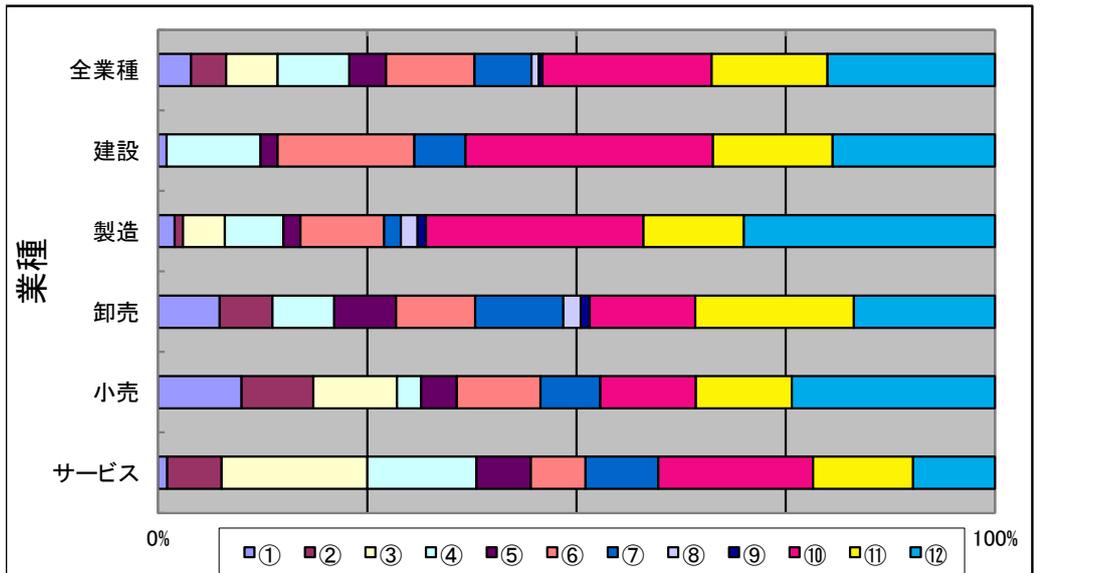


今期(H28. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は59社、「減少した」と回答した企業は11社、「横ばいである」と答えた企業は92社であった。DI値は29. 6となった。

業種別のDI値では、建設業41. 2、製造業29. 5、卸売業30. 6、小売業11. 1、サービス業21. 2となった。

来期(H29. 1~3)の見通しでは、全業種DI値は27. 4となる見込み。業種別に見ると、建設業23. 3、製造業20. 9、卸売業25. 0、小売業▲11. 1、サービス業28. 1となる見込み。

## 経営上の問題点



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加  
⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他

今期(H29. 1~3)の経営上の悩みとしては、「従業員の確保難(20. 2%)」「需要の停滞(13. 8%)」「仕入単価の上昇(10. 5%)」を指摘する声が多く寄せられている。

「従業員の確保難」の業種別内訳は建設業(31. 5%)、製造業(28. 3%)、卸売業(13. 0%)、小売業(8. 7%)サービス業(18. 5%)。

## <事業所から寄せられた主なコメント>

### 【建設業】

民間工事に比べ公共工事には人手がかかるので、入札を控えざるをえない。(塗装工事業)

人出不足。求人募集をしても応募がない。(管工事業)

### 【製造業】

借入が困難になってきている。(その他の金属製品製造業)

人員の確保が困難である。募集しても良い条件が出せないため、求人が来ない。(生活雑貨製品製造業)

為替レート変動への対応が問題である。(その他の繊維製品製造業)

### 【卸売業】

3号線にバイパスがないのは、発展を妨げているのではないか。(包装資材卸売業)

高齢化などにより販売先の廃業が増えている。(繊維製品卸売業)

### 【小売業】

客層の高齢化にともない自宅への配達などの負担が増えている。(医薬品・化粧品小売業)

マイナンバーの導入をきっかけに、従業員規則の見直しを行っている。従業員にとって働きやすい

環境を整えたい。(写真機・時計・眼鏡小売業)

### 【サービス業】

ホームページ等のバージョンアップをしたい。小規模事業者持続化補助金を申請したい。(理容業)

大手企業がビジネスを拡大しており、中小規模の業者は競争激化で存続が厳しい。(駐車場業)